公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市會津八一記念館		
管理者名	公益財団法人會津八一記念館	指定期間	令和6年4月1日～令和11年3月31日
担当課	新潟市文化スポーツ部文化政策課		
所在地	新潟市中央区万代3丁目1番1号 新潟日報メディアシップ5階		
根拠法令			
設置条例	新潟市會津八一記念館条例		
施設概要	設置：昭和50年4月（平成10年6月 市へ寄贈） （平成26年8月1日 中央区西船見町から現在の所在地へ移転） 施設規模：鉄筋コンクリート 428.58㎡ 施設内容：展示室、館長室、会議室、事務室、レクチャールーム、収蔵庫 観覧料：一般500円、大学生300円、高校生200円、中学生・小学生100円 （特別展を除く。）		

施設設置目的	
會津八一の作品、遺品等を収集し、保管し、及び展示することにより、會津八一の業績を顕彰するとともに、市民文化の向上に資するため。	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文化・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、郷土新潟の文化振興とともに、我が国の教育・学術の興隆に寄与する。 （公益財団法人會津八一記念館定款第3条抜粋）	

視点	評価項目	評価指標	実績	評価※	評価コメント※
市民	基準利用者数の達成	観覧者数年間7,000人以上	5,375人	C	より一層の改善に励まれ、指標の達成を望む。
	広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ホームページアクセス件数年20,000件以上 各種メディア・SNS等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 28,359件アクセス数のカウント法が変わり、昨年との比較はできないが、大きく減っていることはない。 市のLINEほか、書の専門雑誌などで広報している 	A	目標を大きく上回り評価できる。
	各種サービス満足度	観覧者アンケート「展示」に対する評価「よかった」以上が85%以上	95%	A	目標を大きく上回り評価できる。
		観覧者アンケート「接客」に対する評価「普通」以上が85%以上	97%	A	目標を大きく上回り評価できる。
	苦情・要望に対する対応	苦情・要望には速やかに対応	対応した	B	
	設置目的に合致したサービス提供	文芸講演会の実施件数を年5回以上	6回	B	
		校外学習の受入件数を年20回以上	27校	A	目標を大きく上回り評価できる。
アウトリーチ活動の実施件		12回	A	目標を大きく上回り評価で	

		数を年4回以上			きる。
	その他	観覧者に占める大学生以下の比率が10%以上	9.4%	C	より一層の改善に励まれ、指標の達成を望む。
財 務	管理運営経費の削減	・指定管理料を年度協定額以下 ・経費縮減に向けた取組の実施	・協定額以下に収まっている ・自働ドア開放などの節電	B	
	市の歳入の増加	観覧料収入を年間2,500千円以上	1,637千円	C	より一層の改善に励まれ、指標の達成を望む。
業 務	業務仕様書等に定める事項の遵守	業務仕様書等に定める事項の遵守	遵守している	B	
	安全責任者の配置と安全確保体制の確立	緊急時連絡体制の確立	確立している	B	
	事件・事故発生時の対応の適切さ	緊急時マニュアルの整備及び消防訓練等の実施	ビルで定めた自衛消防隊の編成と任務が明文化されている。ビルの消防訓練に参加。	B	
	日常連絡の適切さ	月次報告書を翌月10日までに提出	提出している	B	
	事業計画・事業報告の適切さ	事業報告書を翌年度4月30日までに提出	提出している	B	
	改善勧告時の対応の迅速さ・適切さ	改善勧告等を受けた場合は、速やかに対応する	勧告があれば速やかに対応する	B	
	運営方針、事業目標に対する自己評価の有無	事業ごとに運営・経営面からの評価を行い、経営に役立てているか。	展示会、講演会等イベントごとのアンケート結果を踏まえ評価、反省し、次のイベントに反映している	B	
	運営方針を実現するための経営戦略の有無	市と定期的にミーティングを行い、経営戦略の見直しに取り組んでいるか。	担当課と密に連絡を取り、指導を受けながら、運営に反映している	B	
	当該施設の管理に係る関係法令の遵守	・コンプライアンス研修の実施 ・個人情報保護の取組を適切に行うこと。	・税理士事務所の指摘に即応し、関係法令の遵守に努めている。 ・個人情報保護には適切に取り組んでいる	B	
	守秘義務の徹底	守秘義務違反に該当する問題が生じないこと。	生じていない	B	
専門性の高い人材の配置及び育成	学芸員を常時1人以上配置するとともに、専門性に優	学芸員2人を配置。展覧会ごと	B		

		れた育成を行うこと。	に調査研究を行い、新聞記事の執筆や図録制作で専門知識の定着と拡大、深化につなげている		
人 材	配置人員のミッションの理解度とスキルの習得度	職員業務研修の実施（1人あたり年2回以上）	3人の対象職員が延べ4回の研修に派遣した。 ・特別減税の説明会(1人) ・開場式の運営の参考にするため、万代島美術館の開場式を見学(1人) ・調査研究の一環で、7年度特別展に備え、早稲田大学會津八一記念博物館と古美術商を訪問(2人)	C	1人あたり年2回以上に達しなかった。より積極的に業務研修を受けさせ、今後の運営に役立てられるよう望む。
	労働基準の充足	・労働基準違反に該当する問題が生じないこと。 ・ワーク・ライフ・バランス等の推進に取り組むこと。	・生じていない ・職員により事情が異なるため、休日休暇を職員同士がうまく融通し合っており取得できている。	B	

【評価基準】

- A：要求水準（評価指標）を達成し、かつその達成度・内容が優れている
- B：要求水準（評価指標）が達成されている
- C：要求水準（評価指標）が達成されていない

※ 評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。（評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていなければ「A評価」とはなりませんので、ご注意ください。）

指定管理者記載欄（アピールしたい事項・未達成項目への改善策等）

評価指標のうち、基準利用者数とそれに伴う観覧料収入で目標を達成できなかったが、その他の項目では概ね指標を満たしている。特に展示に対する肯定的評価は前年の92%から95%へと限界に近い中で3%上昇した。これを裏付ける要因のひとつとして、展示量不足を指摘する回答が14%から10%に減少したこともあると思われる。来館者数は野中館長が自らプロデュースした夏季企画展「鐵齋・八一の文人世界」が例年を上回ったことから3回の企画展全体でも前年を上回った。しかし特別展が前年の4000人超から1900人へと大きく減ったことで、年間の来館者数も7000人台から5400人弱へ大きく減少した。来館者数は減ったものの、特別展の展示に対する評価は前年の92%から97%へと5%上昇し、満足度は高かったようだ。特別展の来館者数が年間来館者数に大きく影響する構造になっており、特別展のテーマ設定が重要だ。大衆迎合的なことはできないが、取り上げてほしいテーマをアンケートで聞いており、これまで以上にこれを重視したテーマ設定を行う。

所管課による総合評価（所見）

現地調査日：令和7年7月8日

入館者数と観覧料収入は昨年度から落ち込み、目標を達成できていない。企画展示の内容によるところが大きいと考えられるが、目標達成に向けてさらなる改善に努めてほしい。一方、校外学習の受入件数とアウトリーチ活

動の実施件数は目標を上回っており、若い世代に會津八一を伝える取り組みも評価できる。令和7年度からキャッシュレス決済を導入するなど、多くの方々から気楽に入館してもらえる施策をさらに推進してほしい。